

令和 4 年度
下水道に関する事故発生状況について
(令和 4 年 7 月末時点)

1. 人身事故（総括）
2. 維持管理作業事故
3. 工事事故
4. 水質事故等

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

1.人身事故(総括)

(令和4年7月末時点)

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	7月までの集計	年度合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)	0 (1)
	2. 負傷事故	0 (4)	4 (1)	3 (4)	5 (1)									12 (10)	12 (38)
	合計	0 (4)	4 (1)	3 (4)	5 (1)									12 (10)	12 (39)
	累計	0 (4)	4 (5)	7 (9)	12 (10)									—	—
工事	1. 死亡事故	0 (0)	2 (0)	0 (1)	3 (0)									5 (1)	5 (6)
	2. 負傷事故	4 (8)	4 (5)	2 (5)	7 (1)									17 (19)	17 (83)
	合計	4 (8)	6 (5)	2 (6)	10 (1)									22 (20)	22 (89)
	累計	4 (8)	10 (13)	12 (19)	22 (20)									—	—
合計	1. 死亡事故	0 (0)	2 (0)	0 (1)	3 (0)									5 (1)	5 (7)
	2. 負傷事故	4 (12)	8 (6)	5 (9)	12 (2)									29 (29)	29 (121)
	合計	4 (12)	10 (6)	5 (10)	15 (2)									34 (30)	34 (128)
	累計	4 (12)	14 (18)	19 (28)	34 (30)									—	—

※下段()書きは前年度(令和3年度)の値
 ※国土交通省へ報告のあった事故について集計

2.維持管理作業事故 (令和4年7月末時点)

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業主体	1. 都道府県	0 (1)	2 (0)	1 (1)	1 (0)									4 (2)
	2. 政令市	0 (2)	2 (0)	1 (1)	0 (1)									3 (4)
	3. 一般市	0 (0)	0 (1)	1 (2)	4 (0)									5 (3)
	4. 町村	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	合計	0 (4)	4 (1)	3 (4)	5 (1)									12 (10)
発生施設	1. 管渠	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	2. マンホール	0 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)									2 (1)
	3. 処理場	0 (2)	0 (1)	2 (4)	1 (0)									3 (7)
	4. ポンプ場	0 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (1)									4 (1)
	5. その他	0 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (0)									3 (1)
	合計	0 (4)	4 (1)	3 (4)	5 (1)									12 (10)
事故類型	死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	1. 墜落・転落	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	2. はさまれ・巻き込まれ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	3. 飛来・落下	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	4. 切れ・こすれ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	5. 転倒	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	6. 激突	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	7. 土砂崩壊	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	8. 交通事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	9. 感電	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	10. おぼれ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	11. 火災・爆発	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	12. 公衆災害	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	13. 作業車両の横転	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	14. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	負傷事故	0 (4)	4 (1)	3 (4)	5 (1)									12 (10)
	1. 墜落・転落	0 (1)	2 (1)	0 (1)	1 (0)									3 (3)
	2. はさまれ・巻き込まれ	0 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (1)									5 (3)
	3. 飛来・落下	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	4. 切れ・こすれ	0 (0)	0 (0)	1 (2)	0 (0)									1 (2)
	5. 転倒	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
	6. 激突	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)									1 (0)
	7. 土砂崩壊	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	8. 交通事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	9. 感電	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	10. おぼれ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	11. 火災・爆発	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	12. 公衆災害	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)									1 (0)
	13. 作業車両の横転	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	14. その他	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)									1 (1)
	合計	0 (4)	4 (1)	3 (4)	5 (1)									12 (10)

(単位:人)

被災者数	1. 自治体職員	0 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (0)									3 (1)
	①死亡	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	②負傷	0 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (0)									3 (1)
	2. 委託先業者	0 (3)	3 (1)	3 (4)	2 (1)									8 (9)
	①死亡	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	②負傷	0 (3)	3 (1)	3 (4)	2 (1)									8 (9)
	3. 第三者	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)									1 (0)
	①死亡	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	②負傷	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)									1 (0)
	合計	0 (4)	4 (1)	3 (4)	5 (1)									12 (10)
	累計	0 (4)	4 (5)	7 (9)	12 (10)									- -

※()書きは、前年度(令和3年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

維持管理作業事故情報データベース

令和4年7月末時点

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・発生防止策		被災者			
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	再発防止策等	被災者	年齢	性別	被害状況
7月										
1	R4.7.1	3. 一般市	その他	②はさまれ・巻き込まれ	下水道施設の一部であるコンポストヤード内での堆肥生成作業を終了し、後片付けのため、窓を閉めようとしたところ、窓際に立てかけていた堆肥のふるい作業に使用する鉄製ふるいが倒れ、左足が下敷きとなり負傷した。	・ふるいの置き場所を定め、使用しないときはロープ等により固定する。 ・作業マニュアルに堆肥生成作業時における複数人での作業の義務付け、作業時における周囲の相互確認の項目を追加した。	委託先業者	54	男	・左膝膝蓋骨折 ・膝蓋骨靱帯断裂
2	R4.7.12	3. 一般市	その他	②はさまれ・巻き込まれ	工事に伴う現地調査において、道路側溝内の状況を確認するため、グレーチング蓋を素手で持ち上げ、その後、蓋を戻す際に左手を挟み負傷した。	グレーチング蓋の開閉作業は、専用工具の使用を徹底したうえで、2人以上で実施し、挟まれる危険性のないことを相互に確認することとした。	自治体職員	36	男	左手人差指、中指、薬指裂傷
3	R4.7.14	1. 都道府県	処理場	①墜落・転落	採水作業に伴う場内移動中、雨に濡れた階段の2段目を降りる際に滑って転倒し、1段目の角で背中を打ち負傷した。	・階段の昇降部分に滑り止めテープの貼り付けを予定。 ・階段の高所部分には手すりが設置されていたが、今回滑った低所部分には手すりが設置されていなかったため、該当部分に手すり設置を予定。 ・滑り止めテープの貼り付け、低所部への手すり設置を実施するまでの間は、階段の使用を禁止とした。	委託先業者	41	男	背中打撲
4	R4.7.20	3. 一般市	マンホール	⑥激突	マンホールの定期点検時において、蓋開閉作業の際、専用工具により蓋を持ち上げようとしたところ、専用工具の差し込みが甘く、蓋から抜けた専用工具が胸にあたり負傷した。	開閉専用工具を使用する際には、確実に工具が差し込まれていることを確認し、慎重に蓋の開閉作業を実施する。	自治体職員	31	男	左胸打撲
5	R4.7.25	3. 一般市	マンホール	②はさまれ・巻き込まれ	マンホールの定期点検時において、蓋の開閉作業の際、蓋を持ち上げ、地面に置く時に左足の親指を挟み負傷した。	雨天時であったためゴム長靴を着用し、作業を行っていたが、安全靴の着用を徹底し、マンホール蓋を置く際の目視確認を徹底する。	自治体職員	54	男	左母趾節骨骨折

3.工事事故 (令和4年7月末時点)

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業主体	1. 都道府県	2 (0)	0 (1)	1 (1)	4 (1)									7 (3)
	2. 政令市	3 (6)	3 (3)	2 (4)	4 (4)									12 (17)
	3. 一般市	2 (4)	5 (2)	1 (2)	5 (0)									13 (8)
	4. 町村	1 (0)	0 (0)	0 (2)	1 (0)									2 (2)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)									1 (0)
	合計	8 (10)	8 (6)	5 (9)	14 (5)									35 (30)
工事分類	1. 管きょ開削	4 (6)	6 (2)	3 (8)	7 (4)									20 (20)
	2. 管きょ推進	1 (1)	1 (2)	0 (0)	1 (0)									3 (3)
	3. 管きょシールド	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)									2 (0)
	4. 管きょその他	2 (2)	0 (1)	0 (1)	1 (0)									3 (4)
	5. 処ボ土木建築	0 (1)	1 (1)	1 (0)	2 (0)									4 (2)
	6. 処ボ機械電気	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)									3 (0)
	7. 処ボその他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)									0 (1)
	合計	8 (10)	8 (6)	5 (9)	14 (5)									35 (30)
事故類型	死亡事故	0 (0)	2 (0)	0 (1)	3 (0)									5 (1)
	1. 墜落・転落	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	2. はさまれ・巻き込まれ	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)									1 (1)
	3. 飛来・落下	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	4. 切れ・こすれ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	5. 転倒	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	6. 激突	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	7. 土砂崩壊	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	8. 交通事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	9. 感電	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	10. おぼれ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	11. 火災・爆発	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	12-1. 公衆災害(人身)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	13. 作業車両の横転	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	14. その他	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)									4 (0)
	負傷事故	4 (8)	4 (5)	2 (5)	7 (1)									17 (19)
	1. 墜落・転落	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)									4 (1)
	2. はさまれ・巻き込まれ	1 (3)	2 (4)	0 (2)	3 (0)									6 (9)
	3. 飛来・落下	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)									1 (0)
	4. 切れ・こすれ	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (0)									1 (2)
	5. 転倒	0 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (0)									1 (2)
	6. 激突	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
	7. 土砂崩壊	0 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)									2 (1)
	8. 交通事故	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)									1 (1)
	9. 感電	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	10. おぼれ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	11. 火災・爆発	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	12-1. 公衆災害(人身)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									1 (0)
	13. 作業車両の横転	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)									0 (1)
	14. その他	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
	物損事故	4 (2)	2 (1)	3 (3)	4 (4)									13 (10)
	12-2. 公衆災害(物損)	4 (2)	2 (1)	3 (3)	4 (4)									13 (10)
	合計	8 (10)	8 (6)	5 (9)	14 (5)									35 (30)

(単位:人)

被災者数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1. 死亡	0 (0)	2 (0)	0 (1)	3 (0)									5 (1)
	2. 負傷	4 (8)	4 (5)	2 (5)	7 (1)									17 (19)
	合計	4 (8)	6 (5)	2 (6)	10 (1)									22 (20)
	累計	4 (8)	10 (13)	12 (19)	22 (20)									- -

※()書きは、前年度(令和3年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

工事事故情報データベース

令和4年7月末時点

NO.	発生年月日							被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業	事故概要	発生場所	事故類型	年齢	性別	被害状況
7月										
1	R4.7.1	2.政令市	1.管きょ開削	掘削工事	改良土で埋戻された固い地盤のガス管付近を電動ピックを用いて、ガス本管、供給管を確認しながら掘削作業していたが、防護措置が不十分であったことから、誤って電動ピックでガス管を破損させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	—	—	ガス管の破損
2	R4.7.1	3.一般市	1.管きょ開削	掘削工事	汚水樹の設置工事において、午前中から作業員がバックホウで作業していたが、途中から体調が悪くなったため、昼休みは事務所に帰り休憩していた。午後になっても体調が回復しないことから、作業は休んでいたが、その後、事務所で意識がなくなり、救急車が到着した時には既に心肺停止で、蘇生を行ったが死亡が確認された。	現場内	14.その他	68	男	死亡(熱中症関連)
3	R4.7.1	2.政令市	4.管きょその他	土質調査	下水道耐震工事のための土質調査(ボーリング調査)を車道上で実施していたところ、交通誘導員が交通整理中に倒れ、搬送された病院で死亡が確認された。	現場内	14.その他	39	男	死亡(熱中症関連)
4	R4.7.5	1.都道府県	5.処ボ土木建築	地盤改良作業	地盤改良作業が終了したプラント内の清掃作業において、作業員がセメントの塊を取り除こうとして回転中の攪拌機内に手を伸ばしたところ、攪拌機の回転体に右腕が巻き込まれ、被災した。	現場内	2.はさまれ・巻き込まれ	33	男	右腕の裂傷(入院1か月)
5	R4.7.6	3.一般市	5.処ボ土木建築	コンクリート打設	浄化センターにおける反応水路(オキシデーションディッチ)の建設工事において、底版壁コンクリート打設を終え、頂版の打設に切り替えるため、作業員が水路上部で生コン打設用ホースの引抜作業を行っていたところ、作業の途中で少し高い所にあったエアホースの外し忘れに気づき、高さを稼ぐために近くにあった単管枠に右足を掛けて外そうとした際、単管枠もろとも転倒し被災した。	現場内	5.転倒	62	男	左足大腿骨骨折
6	R4.7.6	2.政令市	2.管きょ推進	人孔設置工	人孔設置・汚水樹設置作業中にφ900ケーシング内に作業員が入って、仮止めしているフラットバーを切断するため、切断機(サンダー)で切断していたところ、回転している刃がフラットバーに引っ掛かりサンダーが跳ねた衝撃により左頬付近と左手首付近に接触し、被災した。	現場内	4.切れ・こすれ	61	男	左頬付近・左手首付近に深い切り傷
7	R4.7.8	3.一般市	1.管きょ開削	土留作業	建込み簡易土留の土留幅調整中に手がすべって転倒し、高さ1.5mから墜落し被災した。	現場内	1.墜落・転落	54	男	頭部の負傷
8	R4.7.10	3.一般市	3.管きょシールド	シールド工	シールド坑内における蓄電池式機関車を用いた鋼製セグメントの運搬作業において、台車にセグメントを乗せて、機関車を始動させた際、荷のセグメントがずれてしまったため、機関車の運転手が機関車とセグメントの間に入り、セグメントのずれを直そうとしたところ、操作を誤って機関車を前進させてしまい、機関車とセグメントに挟まれ、被災した。	現場内	2.はさまれ・巻き込まれ	50	男	外腸骨動脈損傷、腸管損傷、右骨盤骨折、横突起骨折
9	R4.7.11	1.都道府県	1.管きょ開削	掘削工事	バックホウで掘削作業中、既存ガス管の埋設シートを確認した上で、残置されていた鋼矢板を露出させようとバケットを土中に入れた際、誤ってガス供給管を損傷させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	—	—	ガス管の破損
10	R4.7.11	2.政令市	1.管きょ開削	掘削工事	既設取付管を撤去するにあたり、近接する水道管及びガス本管の位置は手掘りにて確認していたが、ガス供給管の埋設位置は未確認の状態でバックホウによる掘削を行い、ガス供給管の立ち上げ部をバックホウのソメ部分にて損傷させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	—	—	ガス管の破損

工事事故情報データベース

令和4年7月末時点

NO.	発生年月日							被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業	事故概要	発生場所	事故類型	年齢	性別	被害状況
11	R4.7.20	4.町村	1.管きょ開削	解体作業	作業ヤード付近で、鋼製土留パネル(たて込み簡易土留め)の解体作業中をしていたところ、土留めのパネルが倒れ、近くで作業していた作業員にあたり、被災した。	現場内	2.はさまれ・巻き込まれ	70	男	両足骨折
12	R4.7.21	1.都道府県	6.処ボ機械電気	片付け作業	汚泥貯留槽の防食工事において、No.2汚泥貯留槽内の防食塗装を完了させ、内部の後片付け(足場・送風機は撤去、供用中のNo.1汚泥貯留槽と繋がるオーバーフロー管は通風、マンホール蓋の換気口は開放)を終えていた。事故当日、作業員は貯留槽外部の後片付けを1人で行い、上司に作業終了の連絡をしたが、翌朝に槽内で倒れている状態を現場代理人に発見された。現場に到着した救急隊員が作業員を救出したが、死亡が確認された。	現場内	14.その他	23	男	死亡
13	R4.7.25	3.一般市	6.処ボ機械電気	左官作業	2階電気室内において、シンダーコンクリートの押さえ作業を実施していた作業員が、床開口部の養生蓋(コンパネ)の上に乗り作業をしていたところ、養生蓋が外れ、約2.7m下のEPS床に落下し、被災した。	現場内	1.墜落・転落	63	男	第12胸椎圧迫骨折
14	R4.7.26	1.都道府県	1.管きょ開削	掘削作業	ます・取付管撤去新設のため、バックホウにて掘削作業を進めていたところ、ガス供給管を損傷させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	-	-	ガス管の破損

 : 死亡事故

 : 負傷事故

 : 物損事故

4.水質事故等 (令和4年7月末時点)

[総括]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	水質事故等 合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
	累計	3 (2)	8 (5)	14 (6)	17 (8)									-

[内訳]

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業主体	1. 都道府県	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (1)									3 (1)
	2. 政令市	2 (0)	3 (2)	2 (0)	1 (0)									8 (2)
	3. 一般市	0 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (1)									5 (5)
	4. 町村	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)									1 (0)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
発生施設	1. 管渠	1 (2)	1 (1)	4 (0)	2 (1)									8 (4)
	2. マンホール	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)									1 (1)
	3. 処理場	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)									3 (1)
	4. ポンプ場	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)									3 (1)
	5. その他	0 (0)	0 (1)	2 (0)	0 (0)									2 (1)
	合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
原因者	1. 下水道管理者(委託先含む)	3 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)									5 (1)
	2. 民間事業者(一般人を含む)	0 (2)	1 (1)	1 (1)	2 (0)									4 (4)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	0 (0)	3 (1)	4 (0)	1 (2)									8 (3)
	合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
事故類型	① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)									2 (0)
	② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)									2 (0)
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)									1 (1)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	2 (1)	1 (0)	3 (1)	2 (1)									8 (3)
	⑥ その他事故(①～⑤以外の事故)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
	水質事故 合計	3 (2)	3 (1)	4 (1)	3 (2)									13 (6)
	その他案件	0 (0)	2 (2)	2 (0)	0 (0)									4 (2)
	水質事故等 合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
状況分類	① 耐用年数経過	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	② 耐用年数以内	1 (1)	0 (2)	2 (0)	1 (1)									4 (4)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
	合計	1 (1)	0 (2)	2 (0)	1 (1)									4 (4)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計

※()書きは、前年度(令和3年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

水質事故等情報データベース

令和4年7月末時点

NO.	発生年月日	事故情報				事故概要・対応	
		事業主体	発生施設	事故類型		事故概要	事故への対応
7月							
1	R4.7.7	2.政令市	処理場	水質事故	②悪質下水の流入（放流水質が基準値に適合）	下水処理場に悪質下水が流入し、一時的に流入下水のpH計において、pH3として酸性となっていることを観測した。	・緊急対応として、薬剤を注入し中和措置を行った。 ・継続して沈砂池及び放流水の監視を行い、pH7前後として中性となっていることを観測した。 ・事業所から悪質下水が流出したと想定されるが、発生源は不明。
2	R4.7.7	3.一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	管渠内が異物で閉塞したことにより、マンホールから汚水が溢水した。	・緊急対応として、閉塞物除去作業を実施し、閉塞原因となっていた木材、布を除去し通水確認後、現地清掃、消毒を実施。 ・原因者特定が困難であるが、市報等の広報を通じ注意喚起を予定。
3	R4.7.15	3.一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	市民から道路上へ汚水が流出しているとの通報を受け、現地調査を実施したところ、道路上への汚水流出を確認した。現地掘削を実施したところ、管路が腐食しており、汚水が漏水していることが判明した。	・緊急対応として、流出した汚水をバキューム車で回収、破損箇所を特定し、応急修繕を実施。 ・今回、破損管路は海に近接していたことから、海水による塩害が主な原因と想定されるが、メーカー、コンサルタント等を含め詳細の原因調査及び再発防止対策を検討中。